

施工の際は、必ず食洗機同梱の取付設置説明書も参照しながら施工してください。

通信料はお客様のご負担となります。また、機種によりご利用になれない場合があります。
<https://sumai.panasonic.jp/dishwasher/manual/new.html>



概要

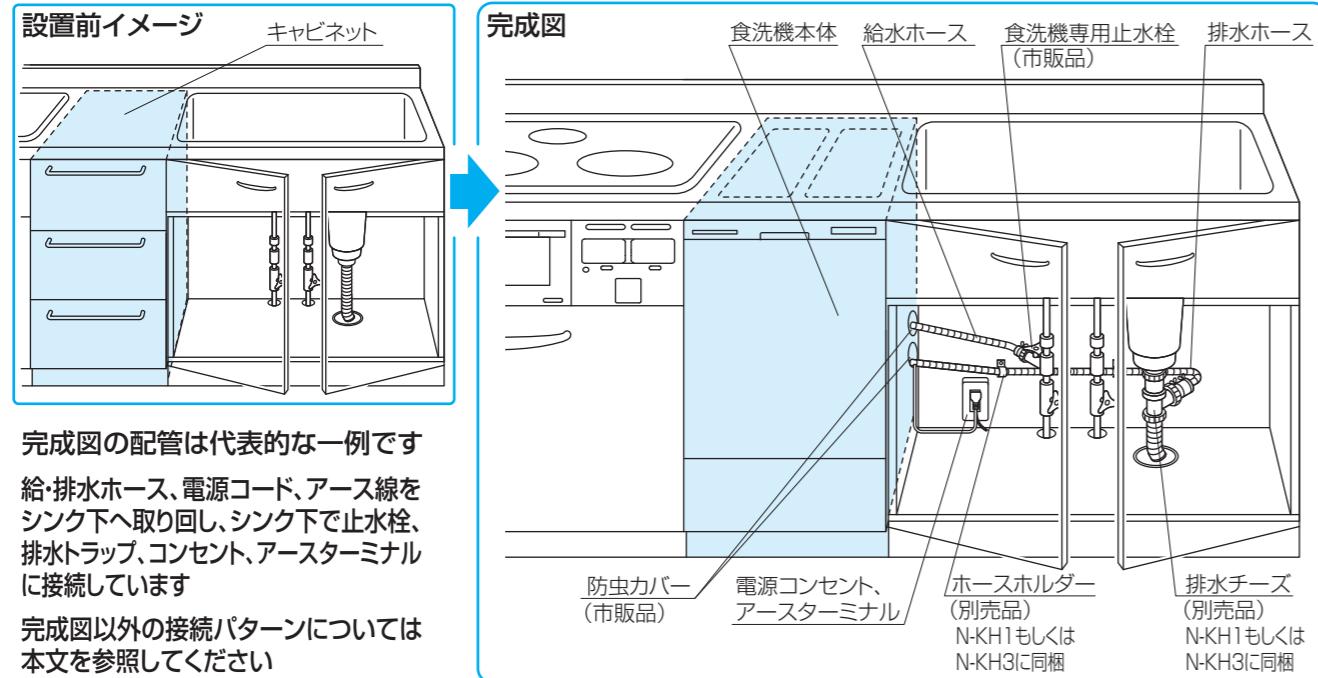
この施工例は、キッチンから幅 450mm のキャビネット本体を撤去して、ディープタイプの食洗機を設置する手順について説明しています。

手順は NP-45MC6T を主体に説明しています。それ以外の機種を施工する場合は手順が異なる場合があるので、必ず食洗機同梱の取付設置説明書も参照しながら施工してください。

【注意】

食洗機を設置する際、キッチン本体を加工する必要がある場合は、まずキッチンメーカーへ加工の可否を確認してください。確認ができたらお客様に加工の内容を説明して、必ず承諾を得てから加工してください。

完成図



完成図の配管は代表的な一例です

給・排水ホース、電源コード、アース線をシンク下へ取り回し、シンク下で止水栓、排水トラップ、コンセント、アースターミナルに接続しています

完成図以外の接続パターンについては本文を参照してください

施工の流れ

- 1 キャビネットの撤去
- 2 補強部材の取り付け
- 3 給・排水ホース通し穴の加工
- 4 電源、アースの設置
- 5 給・排水接続部の設置
- 6 台枠(脚ユニット)の組み立て
- 7 台枠(脚ユニット)の取り付け
- 8 フィラーの取り付け(一部機種)
- 9 本体の設置および固定
- 10 給湯(給水)管および排水管との接続
- 11 本体取り付け状態の確認
- 12 試運転の実施
- 13 試運転後の作業

■ 設置条件

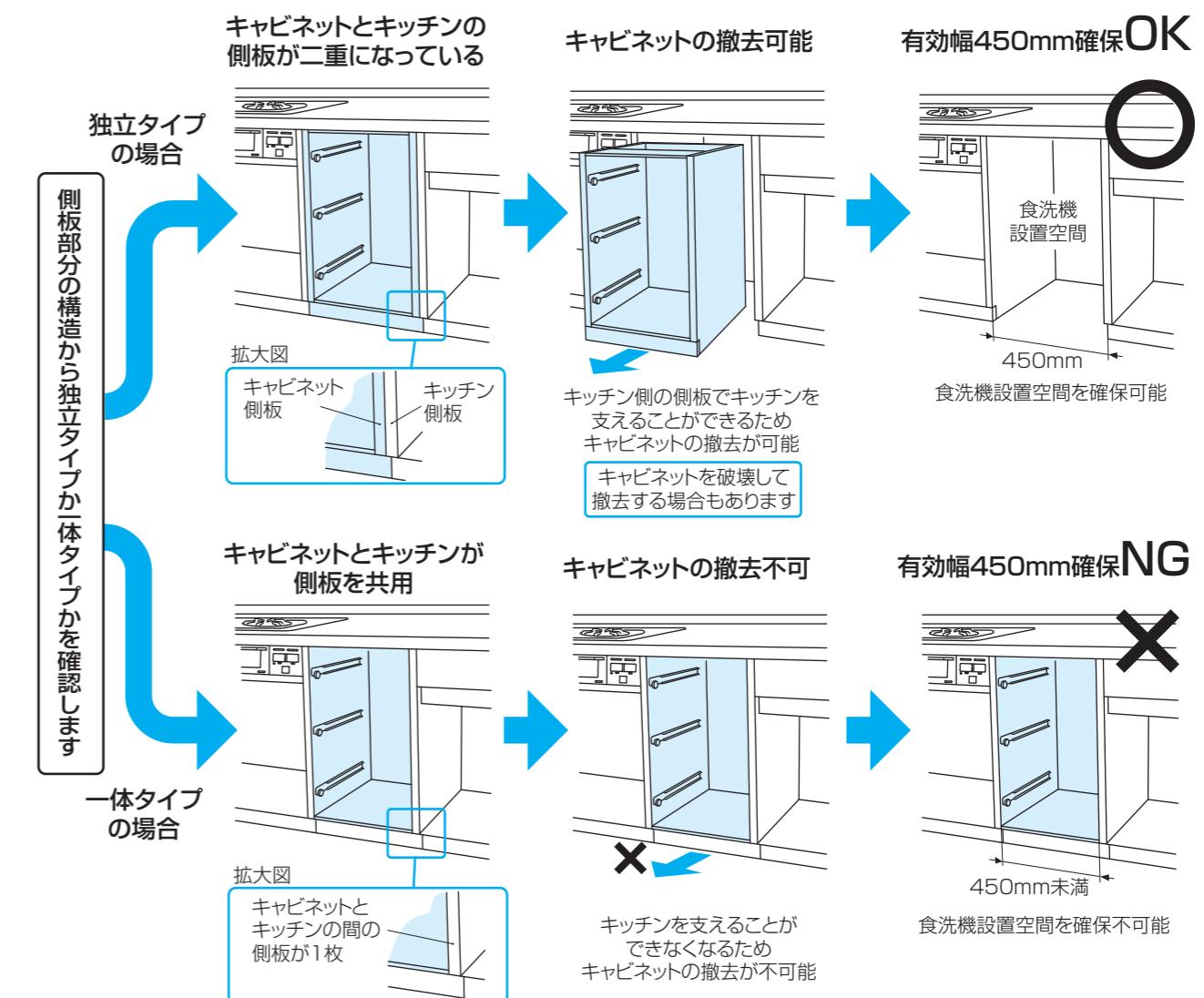
施工前に設置空間、給・排水、電源などの各種設置条件を満たしていることを確認してください。

この施工例の設置条件は、キャビネットが幅 450mm の独立タイプであることを前提としています。

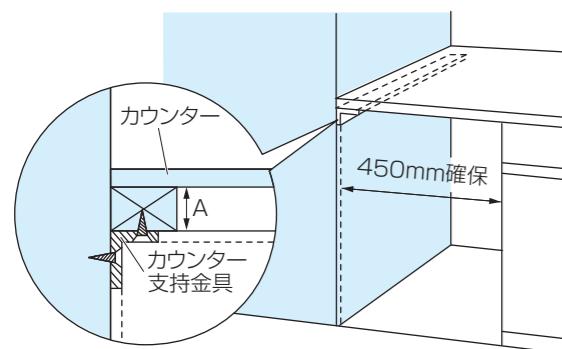
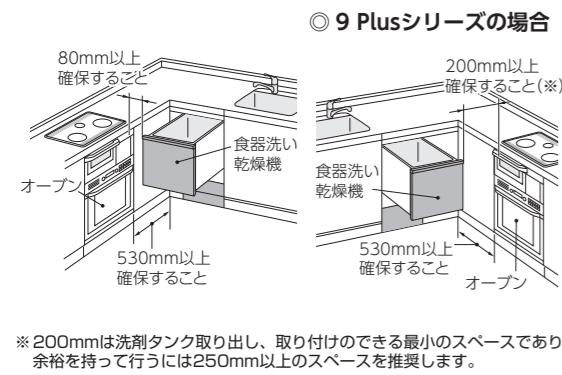
独立タイプはキャビネット本体をキッチンから撤去できるため、ディープタイプをビルトインする際に必要な有効幅 450mm の食洗機設置空間を確保可能です。

一方、一体タイプは、キャビネット本体を撤去できないため側板がキッチンに残り、有効幅 450mm の食洗機設置空間を確保できません。

したがって、食洗機本体の幅が約 450mm のディープタイプは、独立タイプのキッチンには設置可能ですが、一体タイプのキッチンにはビルトインできません。



■ 設置空間条件の留意点



● L型コーナー部に設置する場合

- 近接する機器と接触しないよう、食洗機ドアの開閉スペースを確保してください。
- 9 Plusシリーズの場合、洗剤タンクの取り出し・取り付けができるよう、食洗機の右側とキッチンのスペースを確保してください。
- 法令義務により、本機やキッチンの金属部を家屋の壁中のラス（モルタル下地の金網）や金属板に電気的に接触しないようにしてください。

※ 法令：電気設備の技術基準の解釈

● 片側が壁面やトルルユニットの場合

- 設置空間の幅 450mm を確保できることを確認したうえで市販の L型金具などを使用してカウンターを補強します。
- 法令義務によりカウンター金属部に接続させないため、締結ビスの長さは図 A寸法より 5mm 以上短くしてください。

※ 法令：電気設備の技術基準の解釈

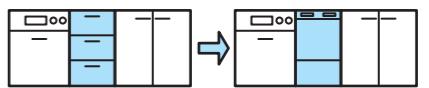
〔別売部材〕

カウンター支持金具 (JUG02NL3P) もあります。
(パナソニック ハウジングソリューションズ(株)扱い)

■ 食洗機本体同梱部品一覧 (ディープタイプ用)

- ・エルボやフィラー等、機種によっては付属しない部品もあります。

①台枠(脚ユニット) 調整脚付き (左右各1個)	②前つぎ板 調整ネジ付き (1個)	③後つぎ板 (1個)
④転倒防止金具 (2個)	⑤調整脚固定金具 (各1個)	⑥前ズレ防止金具 (1個) (黒色)
⑦木ネジ (φ4×30mm) ●①横連結用 (4本)	⑧ネジ(大) (φ5×15mm) ●⑤取り付け用 (5本)	⑨ネジ(中) (φ4×14mm) ●②・③・④取り付け用 (6本) (NP-45MC6Tのみ) ●②・③・④・⑥取り付け用 (8本) (MD9・VD9・RD9シリーズのみ)
⑩点検口 <ボデーB> (1個)	⑪エルボ (1個) ⑫パッキン (1個)	⑬ケコミカバー (1枚) (黒色)
 ※タイプにより形状が異なる場合があります		 ※タイプにより形状が異なる場合があります
⑭ネジ(長) (φ4×20mm) ●⑯取り付け用 (2本) (黒色)	⑮ホースジョイント (1個) ⑯ホースバンド(大) (2本)	⑰ホースバンド(小) (1個)
※N-KH1付属のホースジョイント(排水ホースBユニット)とは、ジョイント部分の直径(A)が異なります	A: φ14mm	
⑱フィラー (1個) 半透明(白色)	⑲ボデーシール (1枚) (黒色)	⑳ネジ (φ4×14mm) ●⑯取り付け用 (2本) (黒色)
 ※MD9タイプ、NP-45MC6Tのみ付属	 ※NP-45MC6Tのみ付属	 ※NP-45MC6Tのみ付属



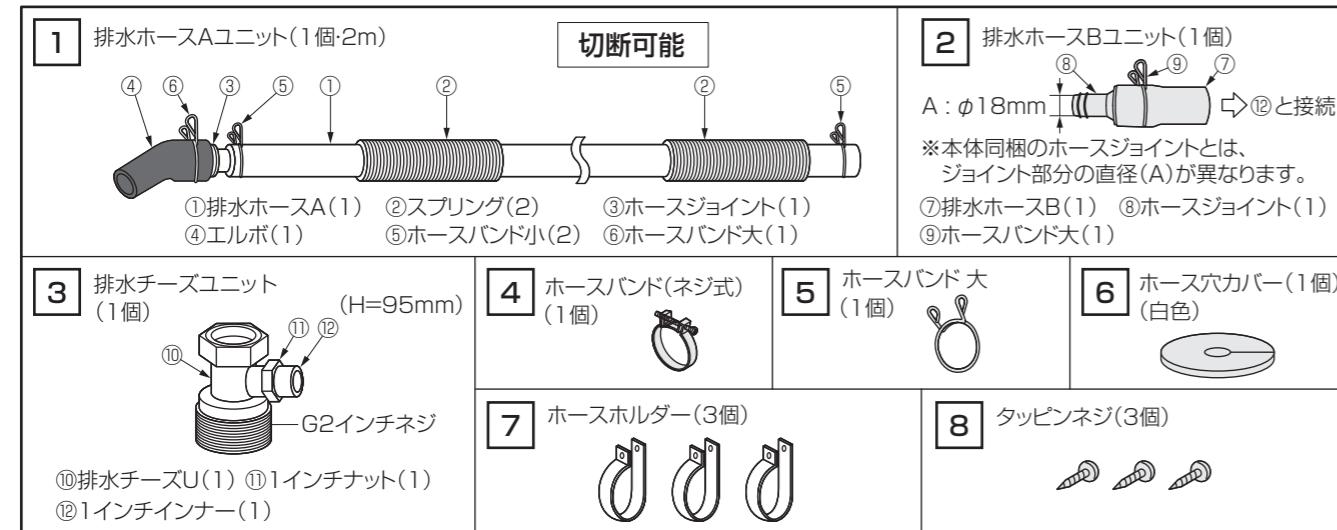
施工関連部材

- 施工関連部材は全て必要ではありません。設置するキッチンの状態、形状から必要な部材を選択して下さい。

● 簡易排水管 (N-KH1)

キッチン空間事業部扱い 希望小売価格 6,600円 (税抜 6,000円 / 工事費別)

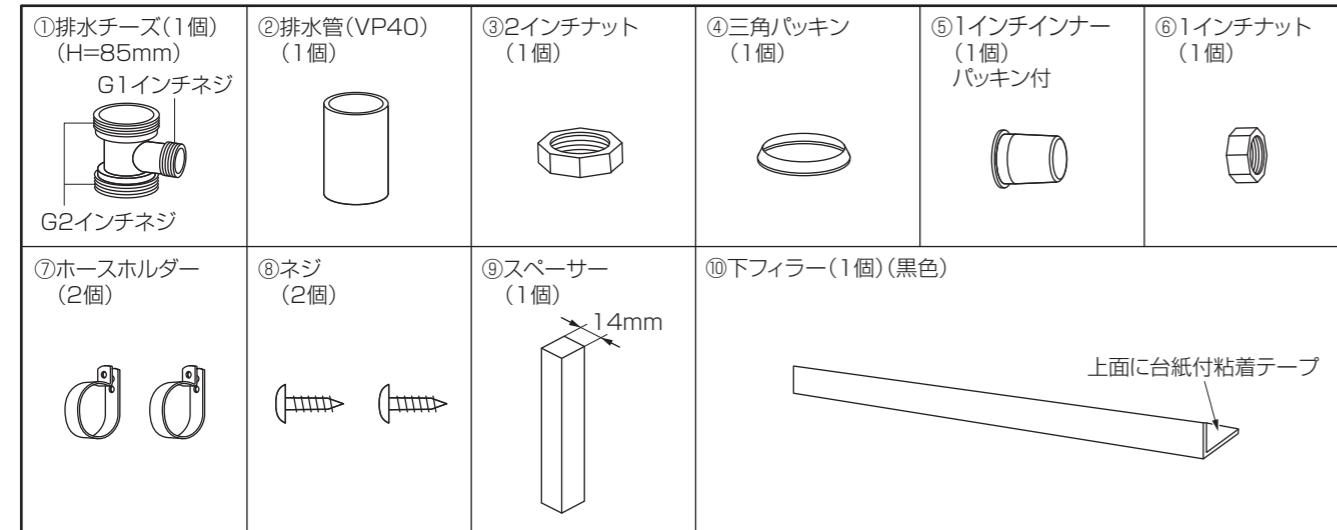
- 排水ホースを延長する場合は、必ず使用してください。
- 施工に必要な排水部材をセットしたものです。直接キッチンの排水トラップへ分岐接続する場合は③を、食洗機本体の排水ホースの長さでは排水管の接続部まで届かない場合には①、②を使用する等、接続先の状態、形状によって組み合わせて使用します。
- キッチンの状態、形状によっては不要になる部品もあります。



● 簡易排水管キット (N-KH3)

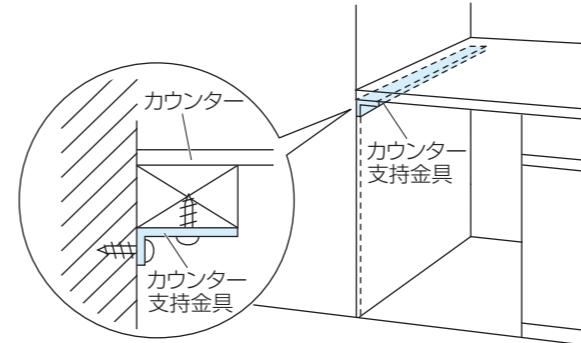
キッチン空間事業部扱い 希望小売価格 7,700円 (税抜 7,000円 / 工事費別)

- 施工に必要な排水部材をセットしたものです。直接キッチンの排水トラップへ分岐接続する場合や、横引き管等の排水管に直接接続する場合に使用します。
- キッチンの状態、形状によっては不要になる部品もあります。



● カウンター支持金具 (JUGO2NL3P)

- 食洗機設置空間の片側が壁面やトールユニットの場合など、壁面側でワークトップ（カウンター）を支えて補強する際に使用します。



パナソニック ハウジングソリューションズ(株) 扱い

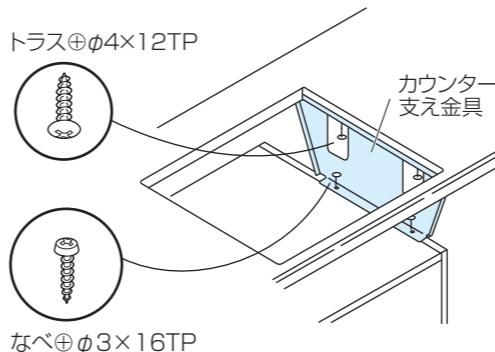
キット内容

部材	内 容	数 量
カウンター支持金具 (JUGO2NL3P)	カウンター支持金具 (400×30×20)	1本
	トラスタッピンネジ (φ4×14)	4本
	D6A皿タッピンネジ (φ4×12)	3本

【単位 : mm】

● カウンター支え金具 (JUGSZFKA)

- 加熱機器下のキャビネットとワークトップとの間に設置して、ワークトップ（カウンター）を支えて補強する際に使用します。



パナソニック ハウジングソリューションズ(株) 扱い

キット内容

部材	内 容	数 量
カウンター支え金具 (JUGSZFKA)	カウンター支え金具 (486×36×193)	1本
	スペーサー板 (t=4)	2本
	トラスタッピンネジ (φ 4×12TP)	2本
	なべタッピンネジ (φ 3×16TP)	2本

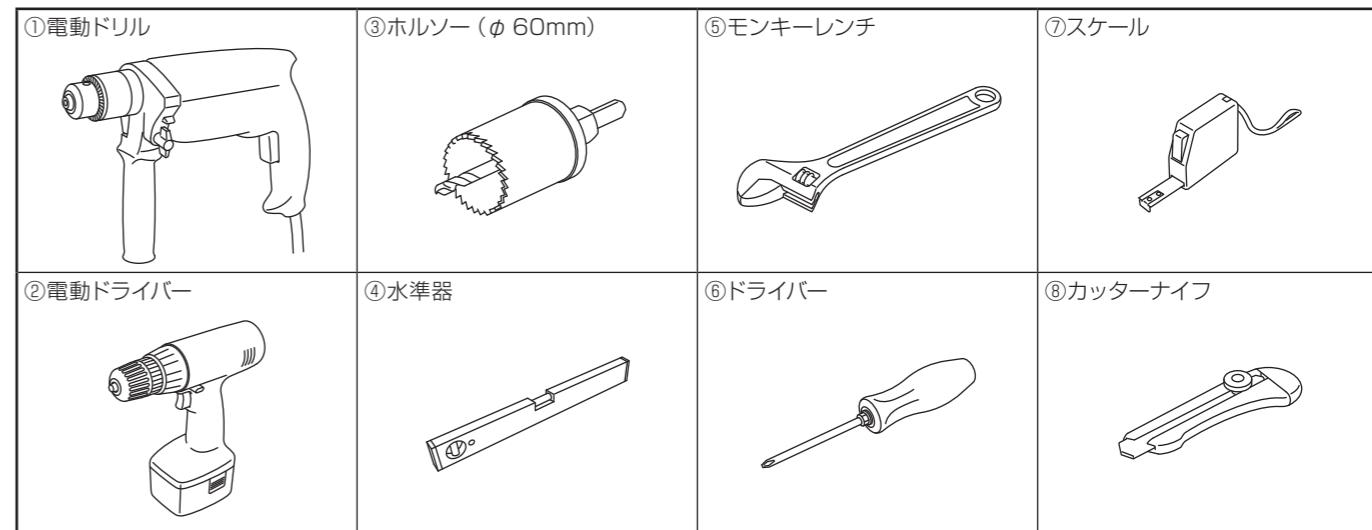
【単位 : mm】

参考

市販の角材を使用して補強する方法もあります。
(補強部材の取付け [09 ページ](#))

■ 主要工具類

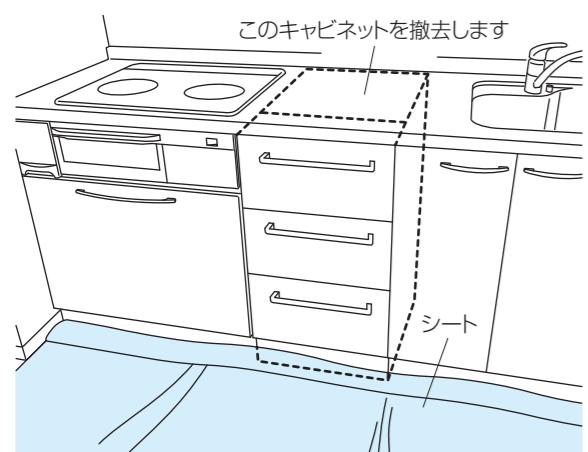
- 施工に必要な主要工具類です。事前に準備をお願いします。



施工手順

1 キャビネットの撤去

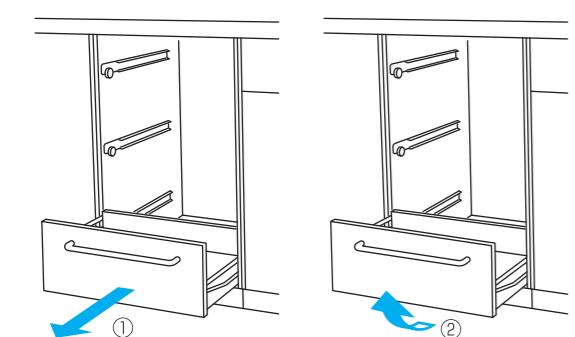
【図1】



養生作業

- (1) 傷つきや汚損を防止するために、取り外すキャビネット周辺の床面をシート等で保護します。 【図1】

【図2】



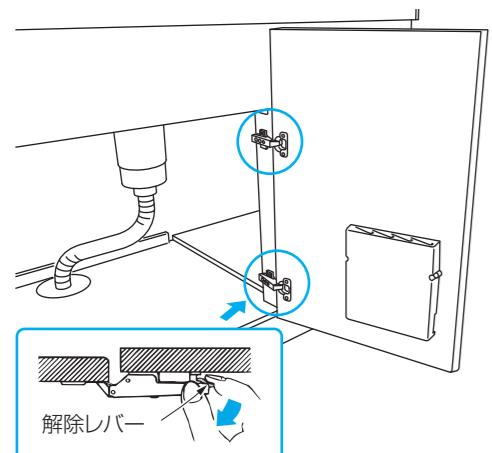
引き出しの取り外し

- (1) 引き出しをいっぱいまで引き出し、斜めに持ち上げて取り外します。 【図2】

【参考】

上記以外にも、ストッパーを手動で解除して取り外すタイプもあります。

【図3】



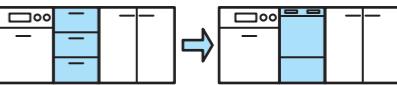
開き扉の取り外し 【図3】

- (1) 扉を保持します。
(2) 扉下側、扉上側の順にヒンジの解除レバーを引き、ロックを解除します。
(3) 扉を取り外します。

【参考】

上記以外にも、前後調整ネジを緩めて扉を取り外すタイプもあります。

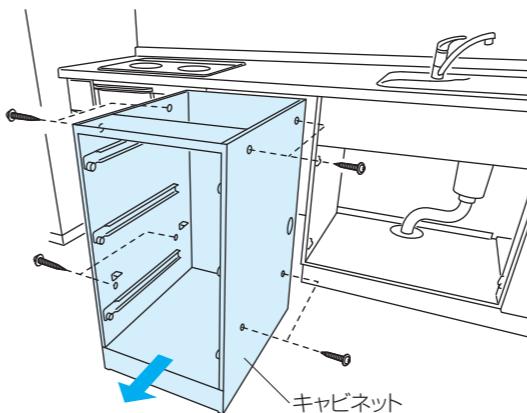
キャビネット本体を撤去して、ディープタイプをビルトイン



【注意】

お客様にキャビネットを撤去する理由を説明して、ご了解を得たうえで撤去してください。

【図4】



キャビネット撤去前作業

【注意】

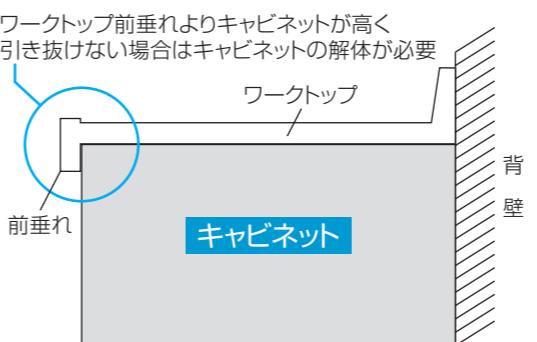
ワークトップの変形を避けるため、キャビネット取り外し前にワークトップ上から調理器具等を取り除いてください。

- (1) キャビネットを加熱機器側およびシンク側に固定しているネジすべてを取り外します。 【図4】

【参考】

加熱機器側からネジ固定されている場合は、加熱機器の脱着が必要になる場合があります。

【図5】



キャビネット撤去(引き出し可能な場合)

- (1) キャビネットをキッチンから引き出します。 【図4】

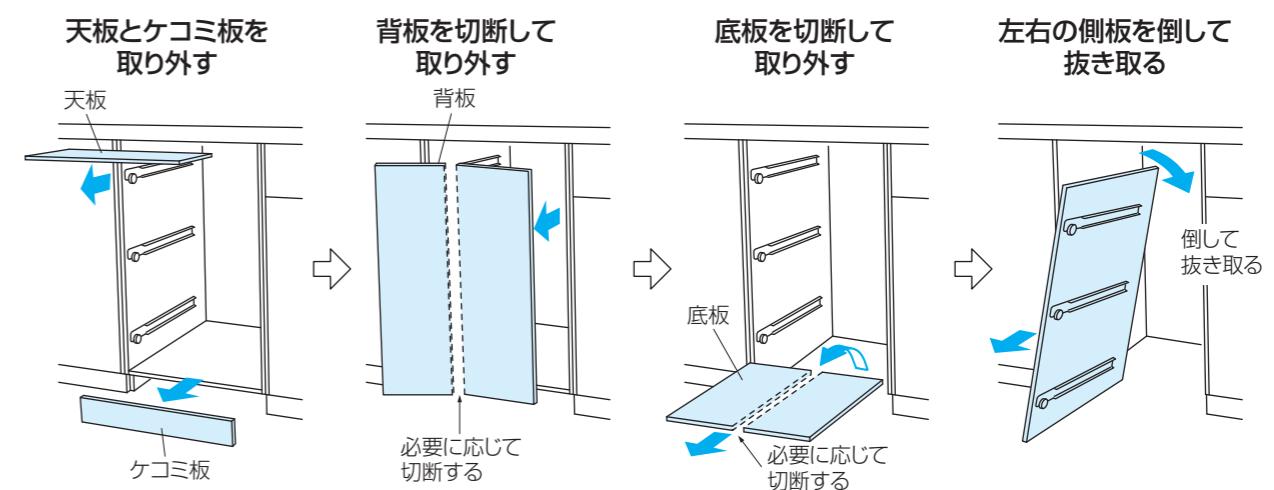
キャビネット撤去(引き出し不可能な場合)

- (1) ワークトップ前垂れ部がキャビネットに当たり、引き出せない場合は、キャビネットを解体して取り外してください。 【図5】

COLUMN

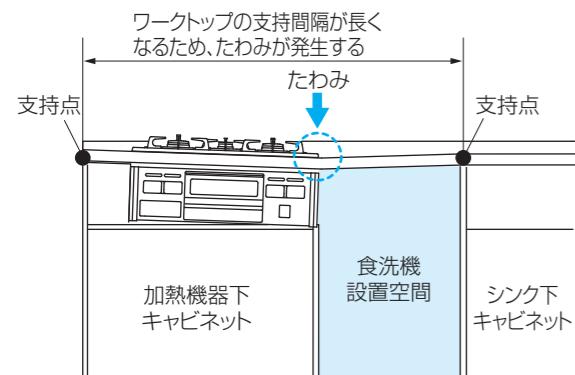
キャビネット解体の一例です。背板や底板を先に取り外してから、左右の側板を抜き取ります。 【図6】

【図6】



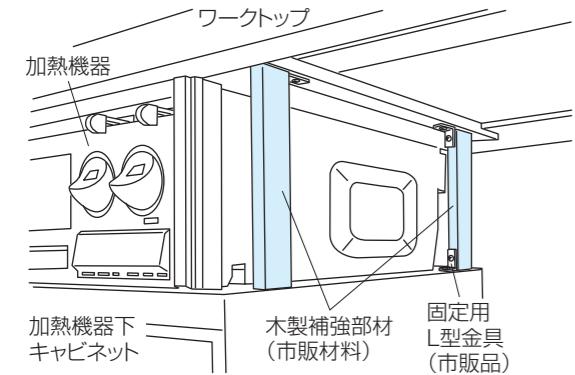
2 補強部材の取り付け

【図7】



(1) キャビネット本体でワークトップを支えるタイプのキッチンは、キャビネットを撤去するとワークトップの支持間隔が長くなるため、たわみが発生する場合があります。 【図7】

【図8】

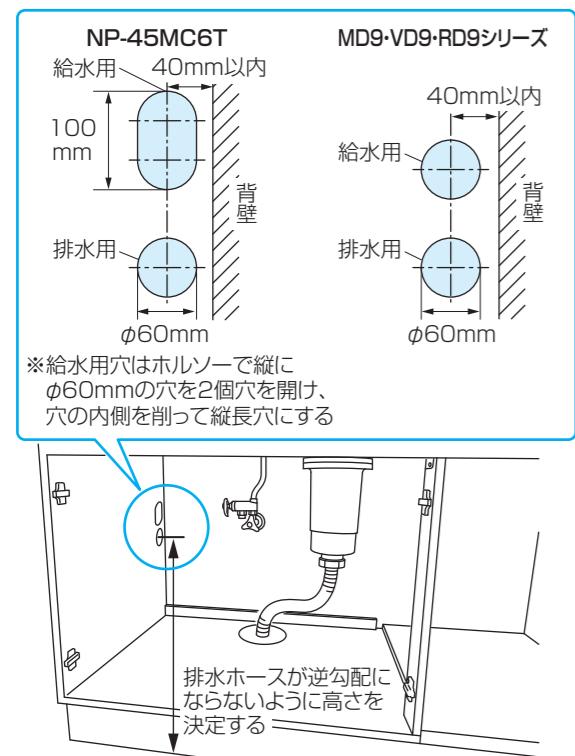


(2) キャビネットを撤去した状態で、加熱機器下のキャビネットがワークトップを支持していないキッチンは、市販材の補強部材を使用して、キャビネットとワークトップとの間を補強部材で支えます。 【図8】

〔別売部材〕
カウンター支え金具 (JUGSZFKA) もあります。
(パナソニック ハウジングソリューションズ (株) 扱い)
(カウンター支え金具 (JUGSZFKA) [06 ページ])

3 給・排水ホース通し穴の加工

【図9】



(1) 給・排水ホースをキッチン下の配管に接続する場合や、簡易排水管キットを使用する場合は、キッチン側板に給・排水ホースを通す穴を、背壁から穴中心までの寸法が 40mm 以内になるように開けてください。 【図9】【図10】

〔注意〕

通し穴は、食洗機背面の排水ホース根元からキッチン側の排水接続部までの間で、排水ホースが下り勾配になるように配慮して開けてください。排水ホースが逆勾配になると排水が食洗機に逆流し、破損や水漏れの原因となります。

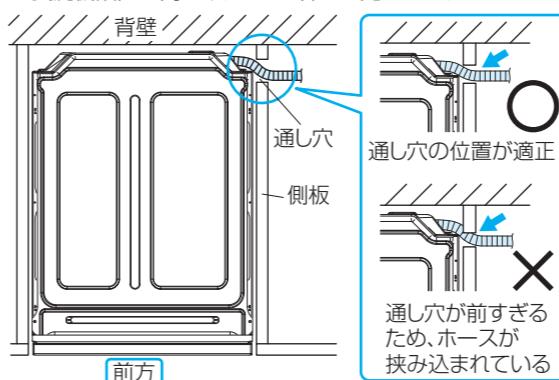
〔参考〕

給・排水ホース通し穴は機種により必要な形状が異なります。

キャビネット本体を撤去して、ディープタイプをビルトイン

【図10】

※食洗機設置空間をキッチン上部から見ています

**〔注意〕**

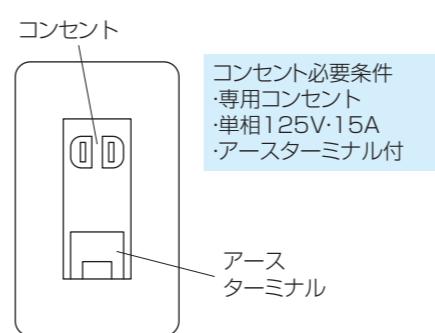
通し穴はキャビネット側板の、背壁から 40mm 以内かつ、極力キャビネットの奥に開けてください。通し穴を必要以上にキッチン手前に開けると食洗機をビルトインした際に本体と側板の間に給・排水ホースが挟まりホースの切断や給・排水不良の原因となります。 【図10】

4 電源、アースの設置

〔注意〕

電気工事、アース工事はすべて電気工事士の有資格者が、電気設備の技術基準に準じて行ってください。

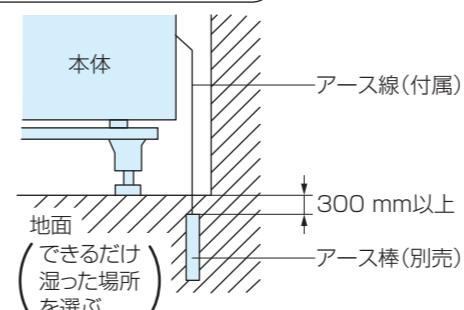
【図11】

**電源コンセントの設置**

(1) 電源コンセントは、定格表示 125V、15A のアースターミナル付埋込みコンセントを使用してください。 【図11】

(2) 電源コンセントは、本体の電源コードの長さ (約 1.4m) が届く範囲内で、メンテナンス上プラグの脱着しやすい位置に設置してください。

【図12】

アース棒を使用の場合**アース（接地）の設置**

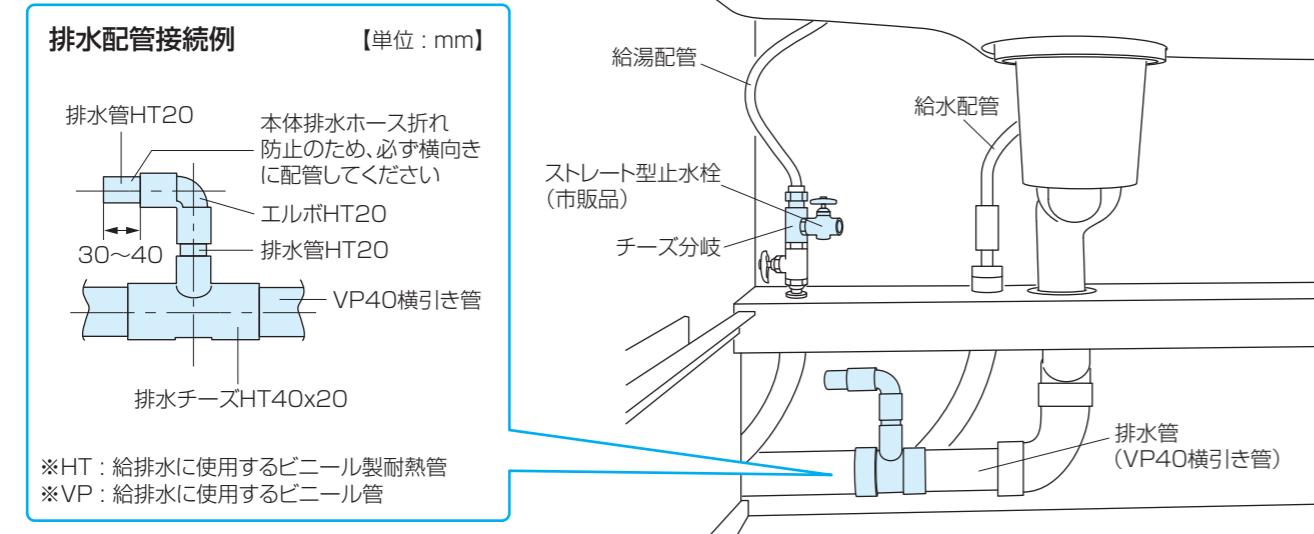
- 感電事故防止のため必ず電気工事士による D 種(第3種)接地工事を行ってください。(法令により規定)
- ガス管や水道管、電話や避雷針、および漏電しゃ断器を入れた他の製品のアース回路には接続しないでください。(法令により禁止)
- アースターミナル付きコンセントは、接地抵抗値 100 Ω 以下のものをご使用ください。

5 給・排水接続部の設置

VP 横引き管へ接続する場合

- (1) 給湯(水)配管は分岐止水栓で給湯(水)配管へ接続します。
 (2) 排水管は、近接するシンクの背面に点検口や配管スペースがあり VP 横引き管に接続できる場合は、以下のように点検口を外してチーズ等で分岐接続してください。

【図 13】

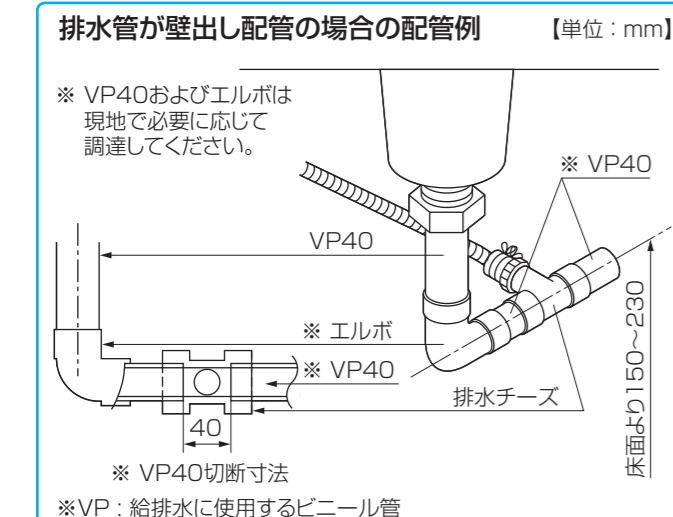


排水トラップおよび壁出し配管へ接続する場合

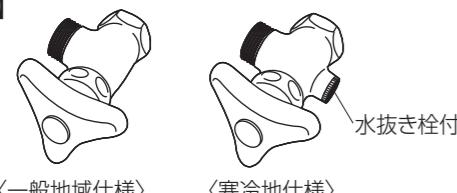
- (1) 給湯(水)配管は分岐止水栓で給湯(水)配管へ接続します。
 (2) 排水管は排水トラップから既設のジャバラホースを外して、チーズ等で分岐接続してください。
 (3) 壁出し配管等で排水トラップに接続できない場合は、VP40 排水管に分岐接続してください。

【図 14】

※給水・給湯配管の止水栓は点検口の奥にあり露出していない場合があります。



【図 15】

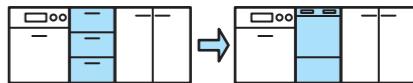


【参考】

凍結が心配される地域に設置される場合は水抜き栓を有した寒冷地仕様の止水栓を取り付けてください。

【図 15】

キャビネット本体を撤去して、ディープタイプをビルトイン

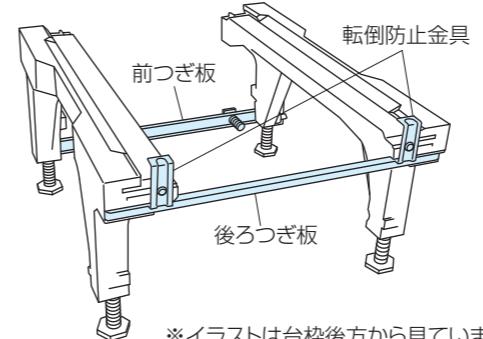


6 台枠(脚ユニット)の組み立て

【注意】

電動ドライバーを使用すると台枠のネジ山が破損して締め付け不良となるため、台枠の組み立てには電動ドライバーを使用せず必ず手締めしてください。

【図 16】



台枠の組み立て

【図 16】

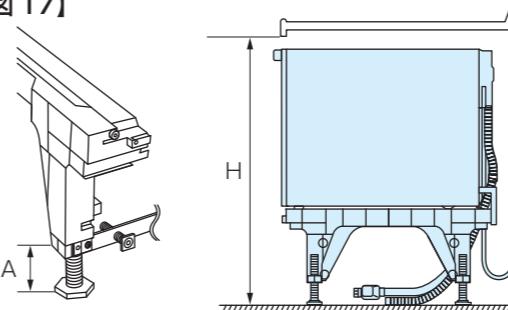
- (1) 前つぎ板、後つぎ板をネジ各 2 本で取り付けます。
 (2) 位置決め穴に合わせ、転倒防止金具を取り付けます。

【参考】

取付設置説明書を参照して組み立ててください。

7 台枠(脚ユニット)の取り付け

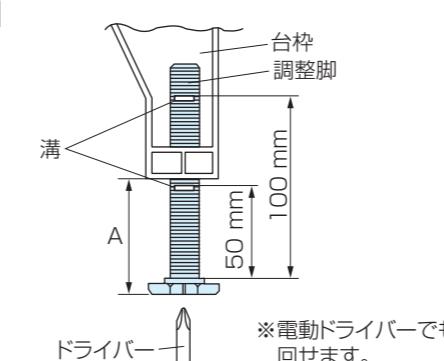
【図 17】



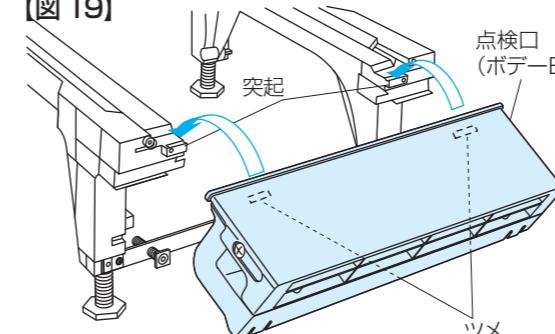
台枠の高さおよび前後位置調整

- (1) カウンタ下面より設置面までの高さ「H」を測定します。 【図 17】

【図 18】



【図 19】



- (2) 調整脚の出代「A」を次の式で求めます。 【図 17】

$$A = H - 747 \text{ mm (NP-45MC6T)} \\ A = H - 742 \text{ mm (MD9・VD9・RD9 シリーズ)}$$

- (3) 調整脚を回転させて「A」寸法になるように出代を調整します。 【図 18】

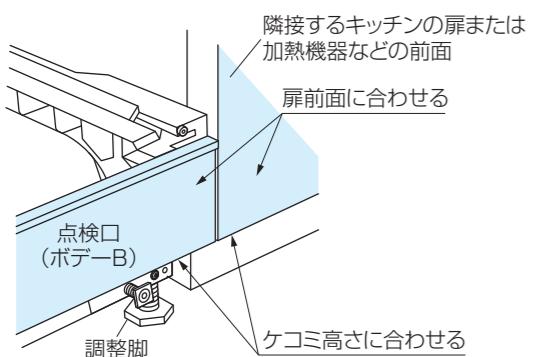
【参考】

調整脚には、それぞれ出代 50 mm と 100 mm の位置に溝があります。

- (4) 台枠を位置決めするため、食洗機設置スペースに隣接するキッチンの引き出しや開き扉を取り付けます。 【図 19】

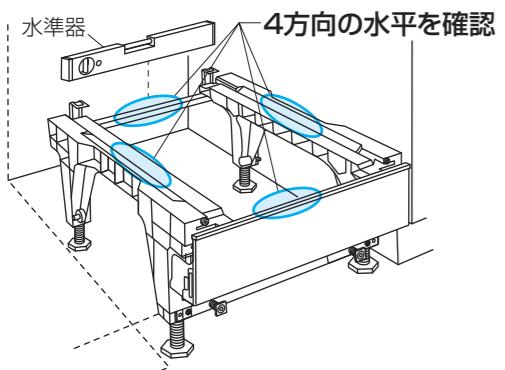
- (5) 点検口(ボーダー B)のツメを台枠の突起にはめ込み、カチッと音がするまで下方を押して取り付けます。 【図 19】

【図20】



- (6) 台枠を設置スペースに配置します。
 (7) 前面を点検口（ボデーB）前面と隣接するキッチンの扉前面に合わせます。 【図20】
 (8) 下面は調整脚でキッチンのケコミ高さに合わせて微調整します。 【図20】

【図21】

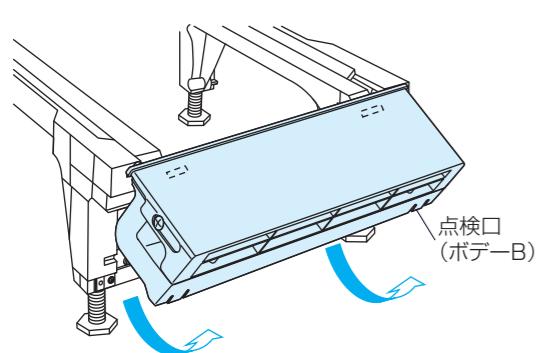


- (9) 調整が完了したら、水準器を用いて、前後、左右方向の4方向に傾きがないように調整してください。 【図21】

【注意】

台枠に傾きがあると本体の設置不良による不具合や、点検口（ボデーB）の取り付け不良の原因となるため、水準器を使用して確実に調整してください。

【図22】

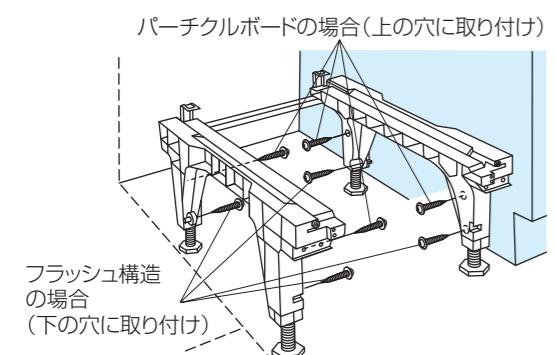


- (10) 位置決めした位置から台枠をずらさないように、点検口（ボデーB）の下辺部を手前に引き、台枠から取り外します。 【図22】

【参考】

点検口（ボデーB）は「試運転」終了まで取り外しておきます。

【図23】



- (11) キャビネット側板に木ネジ4本で台枠を締め付けて固定します。 【図23】

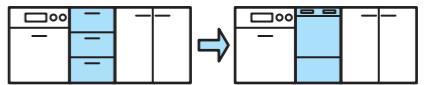
キャビネットの側板が

- ・パーティクルボードの場合→上の穴
 - ・フラッシュ（中空）構造の場合→下の穴
- に木ネジを取り付けてください。

【参考】

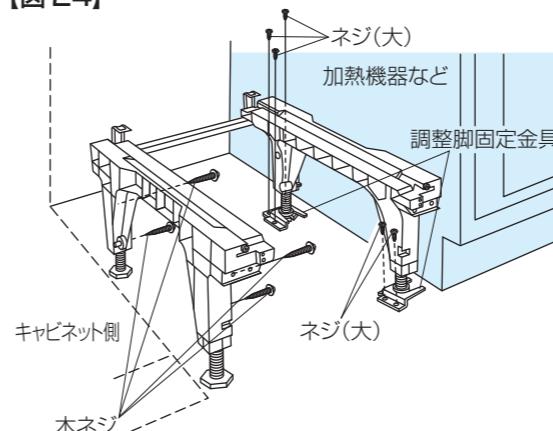
- ・パーティクルボード：接着剤と混合した木材の小片を高温、高圧で成形した板材。
- ・フラッシュ構造：角材などで作られた枠の両面に薄い板を貼って作られる中空の板材。

キャビネット本体を撤去して、ディープタイプをビルトイン



- (12) 片側に加熱機器などがあり、木ネジが使用出来ない場合は、調整脚固定金具を取り付けて固定します。 【図24】

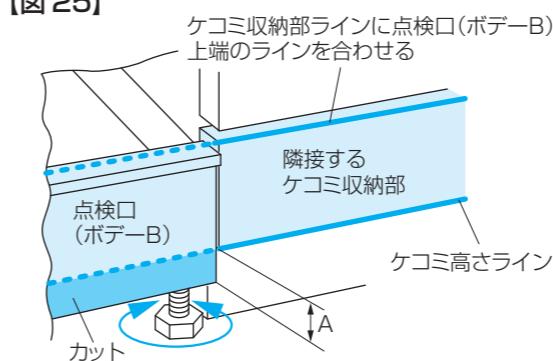
【図24】



【参考】

NP-45MC6Tは、ケコミ収納部と高さを合わせる場合など、点検口（ボデーB）の寸法を調整することも可能です。 【図25】

【図25】



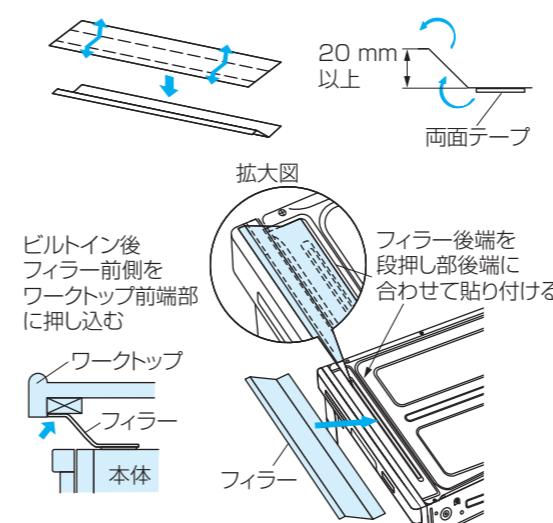
- (1) 隣接するキッチンのケコミ収納部ラインと、本機の台枠にセットした点検口（ボデーB）上端の高さを本体台枠の調整脚を回してそろえます。
 (2) 隣接するキッチンのケコミ高さラインと点検口（ボデーB）の高さの差「A」を測定して、「A」寸法の分だけ点検口（ボデーB）をカットします。

【参考】

取付設置説明書を参照して調整してください。

8 フィラーの取り付け（一部機種）

【図26】



フィラーの取り付け

（NP-45MC6T、MD9シリーズのみ） 【図26】

- (1) フィラーの折り目（ミシン目）に合わせて図のように折り曲げ、下部の両面テープの離型紙をはがします。
 (2) 本体天面にある段押し部にフィラー後端を合わせ、左右均等になるように貼り付けます。
 (3) 本体ビルトイン後にフィラーが前側にはみ出さないように、天板形状に合わせてフィラーを天板前面部に押し込みます。

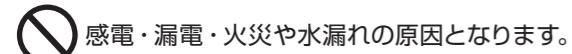
【参考】

フィラーは騒音低減のため、付属する機種は必ず取付けてください。

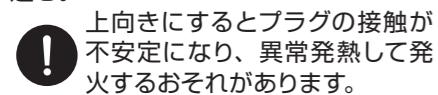
9 本体の設置および固定

! 警告

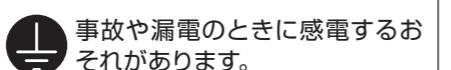
ビルトインのとき電源コード、アース線、排水ホース、給水ホースに傷をつけない。



電源プラグはコードが下向きになるよう上向きにし、コンセントに奥まで確実に差し込む。



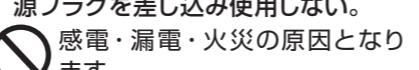
アースを確実に取り付ける。



● 事故や漏電のときに感電するおそれがあります。

● 電源コードを切断したり、屋内配線ケーブルと直結したりしない。

● コンセントを床面にころがして、電源プラグを差し込み使用しない。



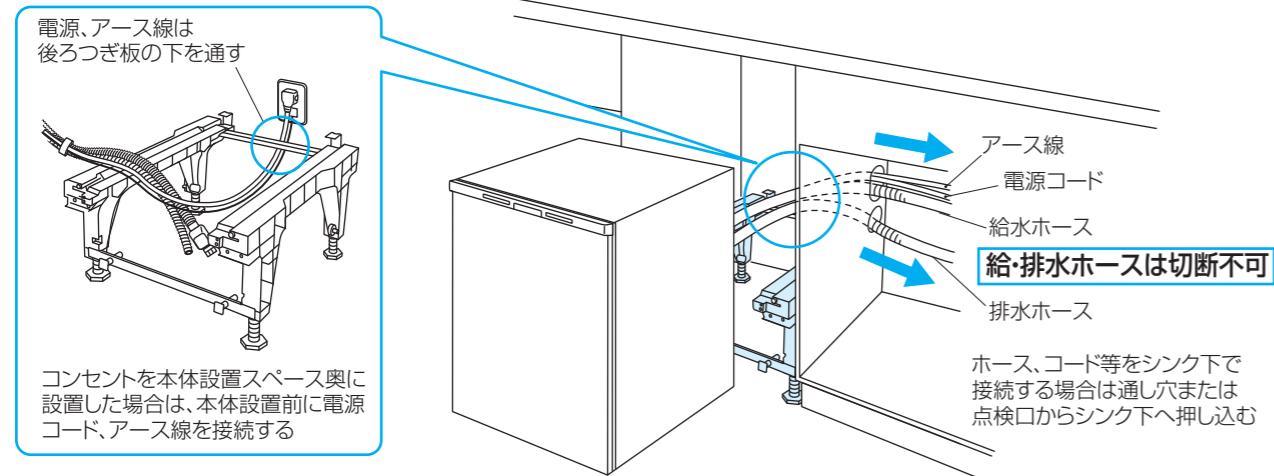
● アース工事は必ず販売店に依頼してください。

本体のビルトイン

(1) 電源コンセントを本体奥に設置した場合は、本体取付前に電源コード、アース線を接続します。【図 27】【図 31】

(2) 電源コード、アース線、給・排水ホースを点検口または通し穴からシンク側へ押し込みます。【図 27】

【図 27】

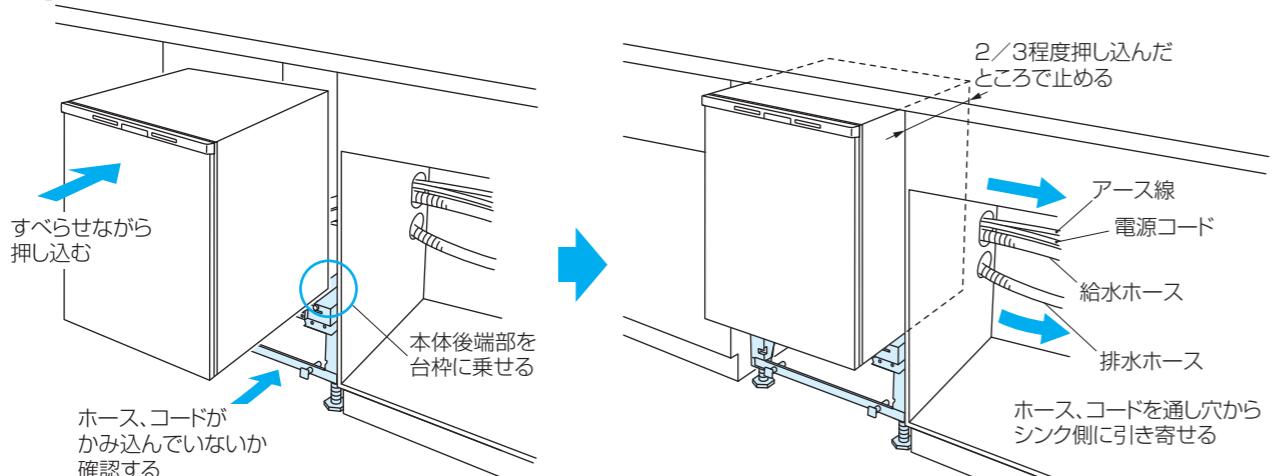


(3) 本体の下面を手で支えて後脚を台枠に載せ、台枠の上をすべらせながら押し込みます。

(4) 本体を 2/3 程度押し込んだところで止めます。

(5) 電源コード、アース線、給・排水ホースを点検口または通し穴からシンク側へ引き寄せます。【図 28】

【図 28】



キャビネット本体を撤去して、ディープタイプをビルトイン

(6) 本体を転倒防止金具にはまり込むまで押し込みます。

(7) ドアを開けて上から少しづ力を加え、ガタツキがないか確認します。

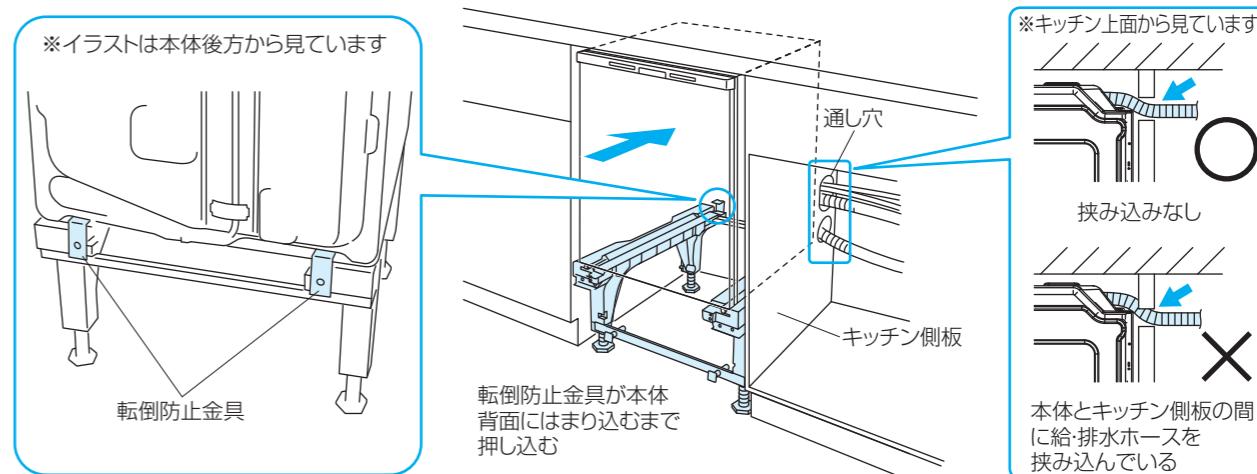
(8) ガタツキがなければ転倒防止金具が本体に確実にかかっていますが、ガタツキがある場合は本体を少し抜き出し、再度奥まで押し込んでください。

【図 29】

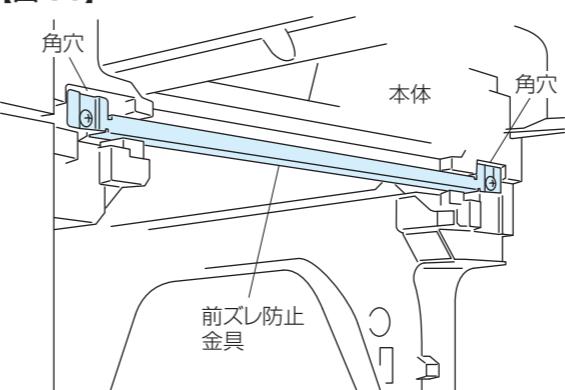
【注意】

本体の収まりが悪い場合は、本体と側壁の間に給・排水ホースが挟み込まれている場合があります。この場合は、通し穴を拡大する等処置を行って下さい。

【図 29】



【図 30】



前ズレ防止金具の取り付け

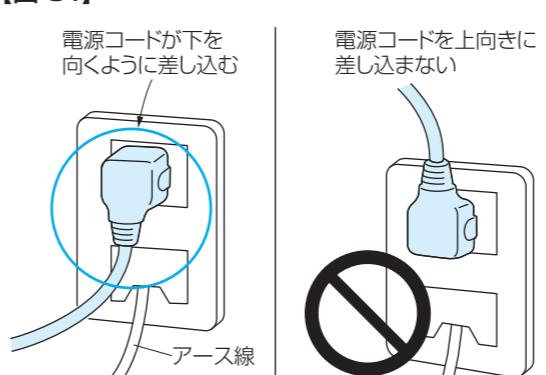
(1) ドアを少し引き出し、同梱の前ズレ防止金具を食洗機前面下部の角穴にはめ込み、同梱のネジ(タイプによって異なります) 2 本で台枠ボス穴に固定します。【図 30】

! 注意

必ず前ズレ防止金具を取り付ける。

! ドアの開閉などにより製品が前へ動き、台枠より落下しきがをするおそれがあります。

【図 31】



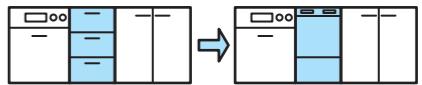
電源コードおよびアース線の接続 【図 31】

(1) 電圧が 100 V であることを確認してから、埋込みコンセントに電源プラグを差し込みます。

(2) アース線をアースターミナルに接続します。

【注意】

- ・コンセントを 200 V 電源に通電すると、コントローラー(電装基板)が瞬時に故障します。
- ・アース線をガス管や水道管、電話や避雷針のアース線には、絶対に接続しないでください。(法令等で禁止されています)



10 給湯（給水）管および排水管との接続

！ 注意

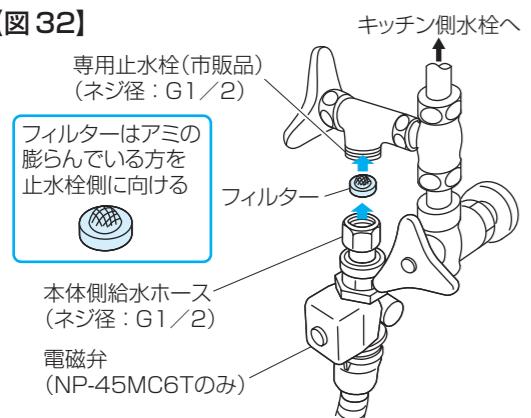
給水ホースおよび排水ホースは切断しない。

水漏れの原因となります。

給水ホースを床面に落させない。

給水ホースは重量物です。落下させるとけがをしたり床面が傷つくおそれがあります。

【図32】



給湯（給水）管との接続

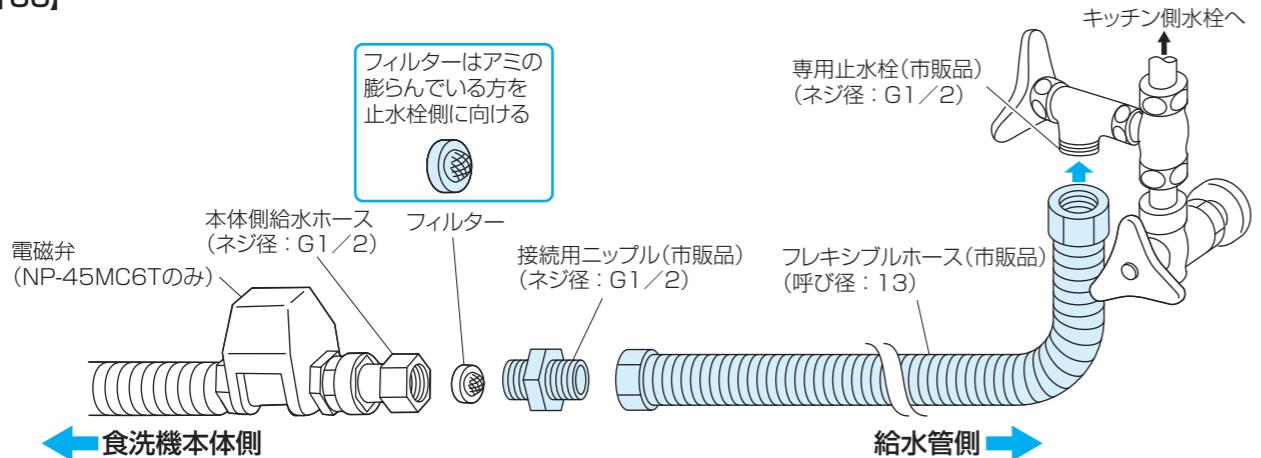
- (1) 給水ホースにフィルターを入れ、専用止水栓へ接続します。 【図32】
- (2) 給水ホースのナットは手で軽く締め込んだ後、スパナ等で約半回転締め付けてください。

適正締付トルク: 5 ~ 10N·m{50 ~ 100kgf·cm}

【参考】

キッチンの給湯（給水）接続部まで本体の給水ホースでは長さが足りない場合は、市販品のフレキシブルホースおよびニップルを使用して給水ホースを延長します。 【図33】

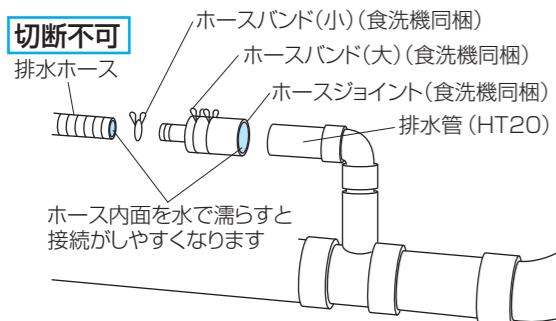
【図33】



排水管との接続

- (1) ホースジョイントを排水ホース、排水管とそれぞれ接続します。 【図34】

【図34】

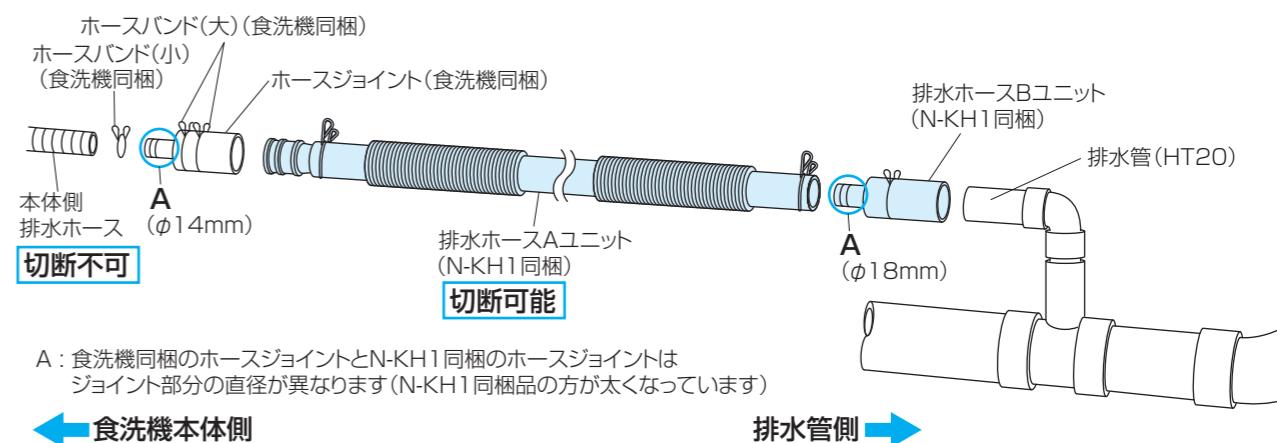


※HT: 給排水に使用するビニール製耐熱管

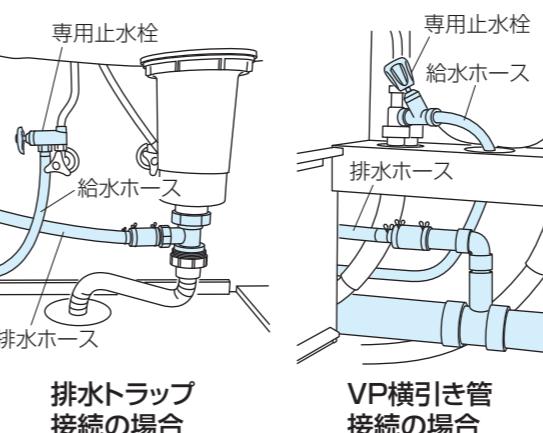
【参考】

本体の排水ホースではキッチンの排水接続部までの長さが足りない場合は、施工関連部材の簡易排水管（N-KH1）に同梱されている、排水ホースAユニットおよび排水ホースBユニットを使用して排水ホースを延長します。【図35】

【図35】



【図36】



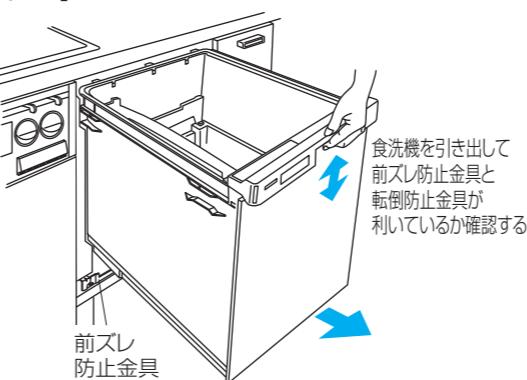
配管状態の確認

..... 【図36】

- (1) 止水栓への接続状態やホースバンドの取り付け状態などを確認してください。
- (2) 給・排水ホースに折れや、ねじれ、たるみがないことを確認してください。

11 本体取り付け状態の確認

【図37】



- (1) 引き出し部を完全に引き出し、荷重をかけ本体が確実に固定されていることを確認します。 【図37】

【注意】

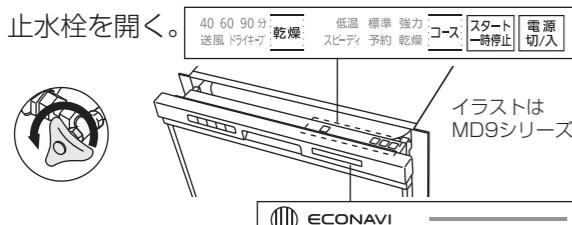
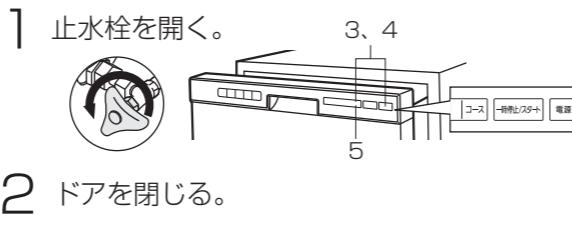
本体のズレや傾きが起こる場合は、次の項目を確認します。

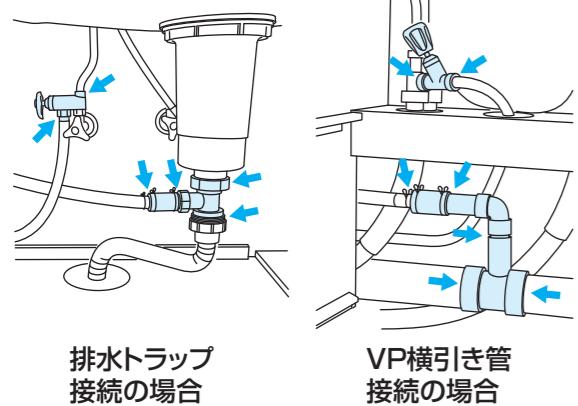
- ・転倒防止金具や前ズレ防止金具が正しく取り付けられているか
- ・電源コード、アース線、給・排水ホースが本体と台枠の間などに挟み込まれていないか
- ・台枠の水平は正しく調整されているか

全ての項目を確認して、異常がある場合は確実に修正してください。

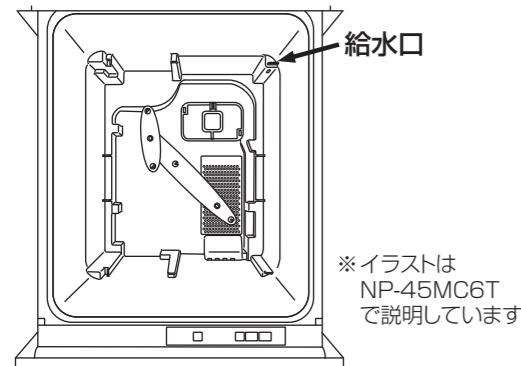
12 試運転の実施

- 本体に電源が入ること、元水栓および止水栓が開栓していることを確認してください。
- 試運転は約3分で終了し、終了後電源が切れます。(表示が消灯します)
- 通電、通水が不可状態で試運転が行えない場合は、必ず通電、通水可能後に試運転を行ってください。(ドアを開けて、水や湯を入れて試運転を行わないでください)

MD9シリーズ / NP-45MC6T	VD9・RD9シリーズ
1 止水栓を開く。  ※イラストはMD9シリーズ	1 止水栓を開く。 
2 「スタート/一時停止」ボタンと「コース」ボタンを押しながら「電源」ボタンを押す。	2 ドアを閉じる。
3 ボタンから手を離し、3秒以内に「コース」ボタンを押す。	3 「コース」ボタンを押しながら、「電源」ボタンを押す。
4 ドアを閉じると、試運転が開始。 試運転中の表示(青色点灯) 	4 「電源」ボタンを離して、「コース」ボタンを3秒以上押し続ける。
※ドアを閉じないと『ピピッピピッ』とブザーが繰り返し鳴ります。(閉じると試運転が開始)	5 『ピピッ』とブザーが鳴ったら、「コース」ボタンから手を離し、3秒以内に「コース」ボタンを押すと、試運転が開始。 試運転中の表示 VD9 [低温 少量 標準 強力 予約 乾燥] RD9 [低温 少量 標準 強力 予約 乾燥]

【図38】
矢印箇所の水漏れ確認

【図39】



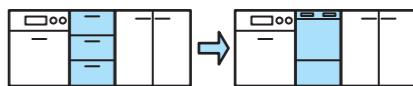
次の項目を確認します

- バシャバシャという噴射音がするか
給排水の接続部や止水栓などから水漏れないか 【図38】
- 運転終了時、ブザーが鳴って、電源スイッチが「切」になるか
庫内の水が排水されているか
電源スイッチが「切」の状態で、洗浄タンク内の給水口から水が出ないか 【図39】

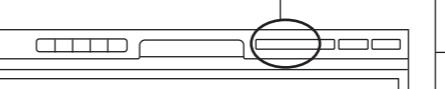
【注意】

試運転後は、止水栓を開いたままにしておいてください。長期間居住されない場合は、万が一の水漏れ防止のため、必ず家屋の元水栓を閉めてください。

キャビネット本体を撤去して、ディープタイプをビルトイン

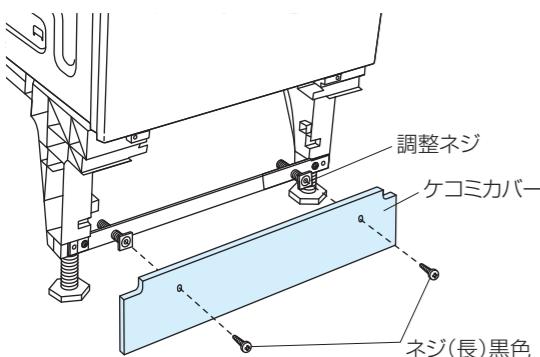


試運転で表示部が点滅しブザーが鳴る場合は、以下の内容を確認・処置後、再度運転を行ってください。

【MD9シリーズ】		上面部 : 40 60 90分 乾燥 送風 ドライブ ロード ブレーカー スピーディ 予約 乾燥 コース スタート 一時停止 電源 切/入	前面部 : 赤色のランプが点滅
【VD9・RD9シリーズ】		表示部 : 全コースのランプが点滅しているときの表示例です。	
		VD9シリーズ [低温 少量 標準 強力 予約 乾燥]	RD9シリーズ [低温 少量 標準 強力 予約 乾燥]
表示	原因	処置	
【MD9シリーズ】 上面部:全コースのランプが点滅 前面部:赤色のランプが点滅		●ドアを確実に閉めると、運転が始まります。	
【MD9・RD9シリーズ】 全コースのランプが点滅		【MD9・RD9シリーズ】 前面部:赤色のランプの点滅から青色のランプの点灯を確認	
【MD9シリーズ】 上面部:低温 標準 強力 のランプが点滅 前面部:赤色のランプが点滅		【MD9・RD9シリーズ】 低温 標準 強力 のランプが点滅 排水不良 排水ホースの折れやつまりによって、洗浄槽内の水が排水できないため。	
【MD9・RD9シリーズ】 低温 標準 強力 のランプが点滅		●電源を「切」にする。 ●排水ホースに折れぐせがないか確認する。 (折れぐせがついている場合は直す)	
【MD9シリーズ】 上面部:標準 強力 のランプが点滅 前面部:赤色のランプが点滅		【MD9・RD9シリーズ】 標準 強力 のランプが点滅 給水不良 断水や止水栓／水道の元水栓の開け忘れなどで給水ができないため。	
【MD9・RD9シリーズ】 標準 強力 のランプが点滅		●電源を「切」にする。 ●断水の場合は断水の回復を待って運転する。 ●キャビネット内の止水栓および元水栓は必ず開栓する。 ●給水弁先端にあるフィルターの付着物を取り除く。	
【MD9シリーズ】 上面部:低温 強力 のランプが点滅 前面部:赤色のランプが点滅		【MD9・RD9シリーズ】 低温 強力 のランプが点滅 機内の水漏れ不良 本体内から水漏れしている。	
【MD9・RD9シリーズ】 低温 強力 のランプが点滅		①止水栓／水道の元水栓を閉める。 ②電源(ブレーカー)を切る。 ③本体底面の排水口キャップを外して本体内の水を抜く。 ④排水口キャップをもとの位置にはめ込む。 ⑤電源(ブレーカー)を入れる。 ※水漏れのおそれがあるため、販売店にご連絡ください。	

13 試運転後の作業

【図40】



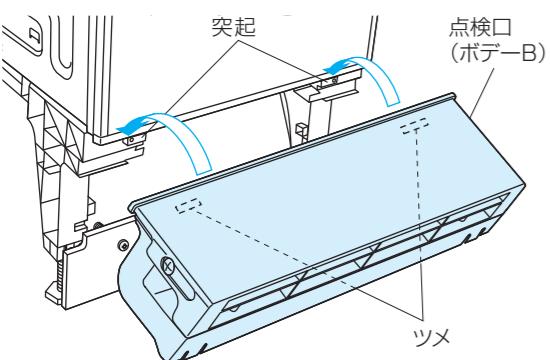
ケコミカバーの取り付け

- (1) ケコミカバーをカッターなどで切断し、高さ寸法を調整したうえで取り付けます。 【図 40】

【参考】

取付設置説明書を参照して取り付けてください。

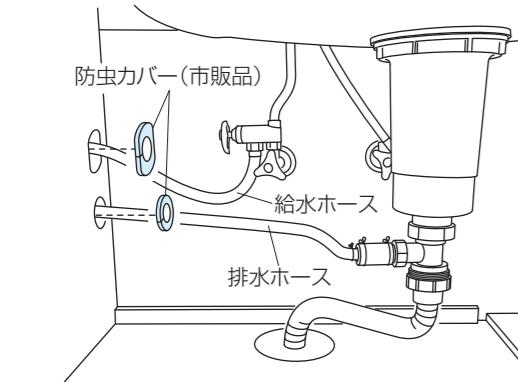
【図41】



点検口(ボディB)の取り付け

- (1) 点検口(ボディB)のツメを台枠の突起にはめ込み、カチッと音がするまで下方を押して取り付けます。 【図 41】

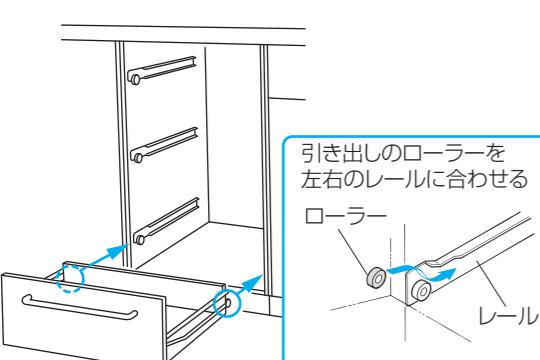
【図42】



防虫カバーの取り付け

- (1) 給・排水ホースの通し穴に、防虫カバー(市販品のカバーまたはプラスチック板を加工したもの)を取り付けます。 【図 42】

【図43】



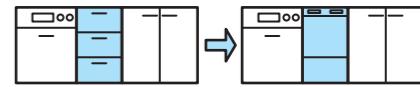
引き出しの取り付け

- (1) 引き出しのローラーをレールのローラーと合わせて引き出しを取り付けます。 【図 43】

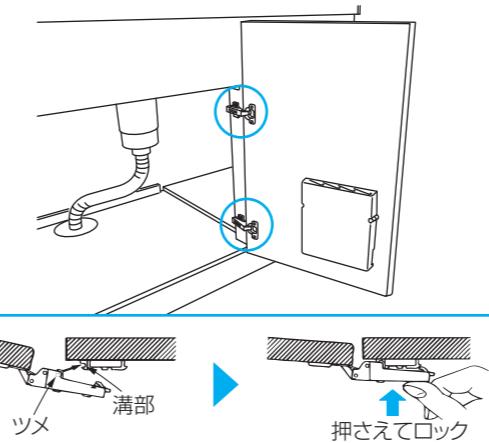
【参考】

上記以外にも、ストップバーをロックして引き出しを取り付けるタイプもあります。

キャビネット本体を撤去して、ティープタイプをビルトイン



【図44】



開き扉の取り付け

- (1) 扉を保持します。
(2) 扉上側、扉下側の順にヒンジ本体のツメ部をプレートの溝部に差し込みます。
(3) ヒンジ本体を「ガチッ」と鳴るまで押させてロックします。

【参考】

上記以外にも、前後調整ネジにて扉を固定するタイプもあります。

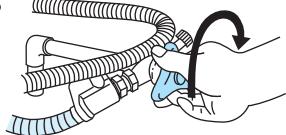
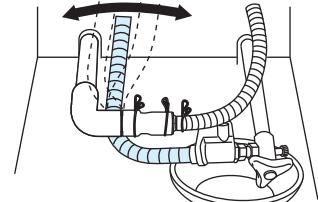
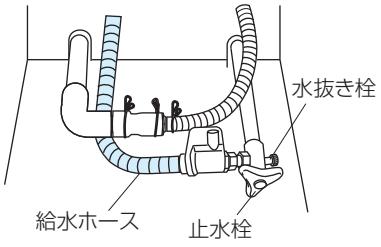
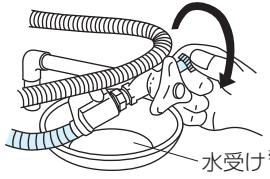
■ 設置後点検の実施

復元作業が完了したら、下表に従って設置後点検を実施してください。

点 検	点 検 内 容	参 照 ペ ー ジ	チ ケ ク
機器およびその周辺	ドアの開閉	他の機器への障害はありませんか。	P.03
	転倒防止金具 前ズレ防止金具	転倒防止金具および前ズレ防止金具は取り付けましたか。	P.12 P.16
給湯(給水)・排水接続	給湯器と接続の場合	指定する給湯器に接続されていますか。	—
	フィルター	給水ホースと止水栓との接続部にフィルターを挿入しましたか。	P.17
	排水ホース	排水管との接続部と確実に接続したことを確認しましたか。 また押しつぶされたり無理に折れ曲がったりしていませんか。	P.11 P.16~18
電 気 接 続	電源コンセント	電源コンセントは専用回路で、電源プラグは125V15Aのアースターミナル付埋込みコンセントに接続しましたか。	P.16
	アース線	アース線を接続しましたか。	
試 運 転	試運転を行い、正常に動作しましたか。	P.19	

■ 水抜き（寒冷地にて長期間使用しない場合）の実施

寒冷地において冬季長期間で使用にならない場合には、以下の方法に従って水抜きを実施してください。

<p>①点検口（ボデーB）の両下端を手前に引いて取り外す。（ツメかん合で取り付けられています）</p>	<p>②止水栓を閉じる。</p> 	<p>⑤給水ホースを左右に振ったり、軽くたたいたりする。</p> 
<p>●給水ホースが止水栓に接続されています。</p>  <p>点検口（ボデーB）</p>	<p>③水抜き栓の下に水受けを置き、水抜き栓を取り外す。（⑤図参照）</p>  <p>水受け*</p>	<p>●残水が排出された後も水抜き栓開口部に乾いた布を押し当て、内部の水を吸いとる。（水滴が落ちなくなるまで）</p>
<p>※約100mLが受けられるお皿や容器を準備。（高さ25mm以下）</p>	<p>④電源を「入」にし、「スタート」ボタンを押す。（給水弁が開放される）</p>	<p>⑥電源を「切」にし、排出水を処理する。</p> <p>⑦必ず水抜き栓を取り付ける。</p> <p>●止水栓は再使用するまで閉じたままにしてください。</p> <p>⑧点検口（ボデーB）を取り付ける。</p>